

登山月報



IFSCボルダーワールドカップ2023八王子大会 実行委員会

JMSCA 登山月報 第651号 令和5年6月15日発行



「初冬の岩手山」／写真提供：(一社)岩手県山岳・スポーツクライミング協会 小野寺 修



No.651

IFSCボルダーワールドカップ2023八王子大会 報告	2
Enjoy Climbing	5
第1回山岳スキー (SKIMO) 委員会総会	6
広島県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGsな活動	7
第59回海外登山技術研究会福井開催 報告	8
寄贈図書	9
「国民体育大会」→「国民スポーツ大会」に改称	10
International Trainnig Campを開催	11
JMSCA、表紙のことば、編集後記	11

IFSCボルダーワールドカップ2023八王子大会 報告

実行委員長 村岡正己



今回のボルダーワールドカップ(以下、BWC)は、2019年の世界選手権から4年ぶり、2018年のBWCから5年ぶりとなる日本でのスポーツライミングの国際大会となりました。

前は、30ヶ国前後の参加でしたが、

オリンピック後、コロナの収束もあり、40の国と地域から男子95人、女子76人の171人の選手が参加しました。大会後の反響から各国のトップアスリートのパフォーマンスで、世界中のボルダーファンが楽しめた機会を提供できたと感じています。

また、新しい取組として大会翌日にInternational Trainning Campを企画。選手を対象としたトレーニングセッション、オフィシャルスタッフを対象としたワークショップ(情報・意見交換)を開催。新しい才能や技術の発掘などスポーツライミングの発展に貢献できたのではと考えています。

さらに、SDGsの一環として八王子市内の小学生を対象とした大会観戦、ボルダー体験を実施しました。市内の小学校6校より児童672人が来場しました。

そして、開催地決定においては、ボルダーに手をあげていた、インドネシア(ジャカルタ)が日本での開催を支持し譲って頂いたことがあったこともここに記しておきます。感謝。

開催日: 4月21日(金) 男女予選

4月22日(土) 女子準決勝、決勝

4月23日(日) 男子準決勝、決勝

会場: 八王子市エスフォルタアリーナ八王子(狭間)

【競技】

21日の予選女子では、Aグループ全完1位の松藤藍夢、Bグループ全完1位の野中生萌合を筆頭に計8人が

準決勝へ。男子は、Bグループ全完1位の植崎智亜を筆頭に計6人が準決勝へ進む。

22日 女子準決勝、決勝

決勝は、かなり課題が厳しく6人中4人が完登ゼロ。アメリカのBROOKE RABOUTOU(ブルック・ラブトゥ)が3完登で優勝。それは、彼女だけ別格に見えるほどのパフォーマンスだった。日本からは松藤が健闘し決勝に進出、3位に食い込む。

第1課題HANNAH MEUL(ハンナ・ミュール)が一撃完登。続いて準決勝3位のBROOKEも完登。第2課題は、完登ゼロ。第3、4課題において、完登が厳しい状況のなか、BROOKEのみ完登し3完で優勝が決定を決める。

4月23日 男子準決勝、決勝

決勝、男子課題も難しく、MEJDI SCHALC(メジシャルック)が2完登で優勝。特に第3課題のコーディネーション系は、他の選手がゾーンで終わっているところ、MEJDI SCHALCが完登。優勝を勝ち取る。



Women's		予選	準決勝	決勝
1	BROOKE RABOUTOU (USA)	5t5z/12,12	2t4z/5,6	3T4z/6,6
2	HANNAH MEUL (GER)	4t5z/6,5	2t4z/4,5	1T3z/1,8
3	松藤 藍夢 (JPN)	5t5z/5,5	2t3z/5,6	0T3z/0,7
4	AYALA KEREM (ISR)	5t5z/9,7	2t3z/6,7	0T3z/0,9
5	ZHILU LUO (CHN)	4t4z/7,7	2t4z/4,7	0T3z/0,11
6	MIA KRAMPL (SLO)	4t5z/7,14	2t2z/2,2	0T1z/0,9

Men's		予選	準決勝	決勝
1	MEJDI SCHALCK (FRA)	4t4z 6 6	1t4z 2 9	2t3z 7 7
2	HANNES VAN DUYSSEN (BEL)	3t5z 9 15	1t4z 8 14	1t3z 2 11
3	PAUL JENFT (FRA)	4t5z 10 9	2t4z 11 13	1t3z 3 3
4	藤井 快 (JPN)	4t5z 8 17	1t2z 3 4	0t3z 0 9
5	安楽 宙斗 (JPN)	3t5z 4 17	1t4z 1 12	0t3z 0 11
6	JONGWON CHON (KOR)	3t4z 3 10	2t2z 6 5	0t3z 0 13



女子以上に難題に見えた男子課題。第1課題完登はMEJDI SCHALCのみでスタートダッシュ。第2課題は3人完登ができるが、第3、第4課題は完登者が出ずに順位の変動はなし。特に第4課題は、ムーブを探っている状況で時間切れの選手が続出。MEJDIが優勝を勝ち取る。

【運営】

来場者数

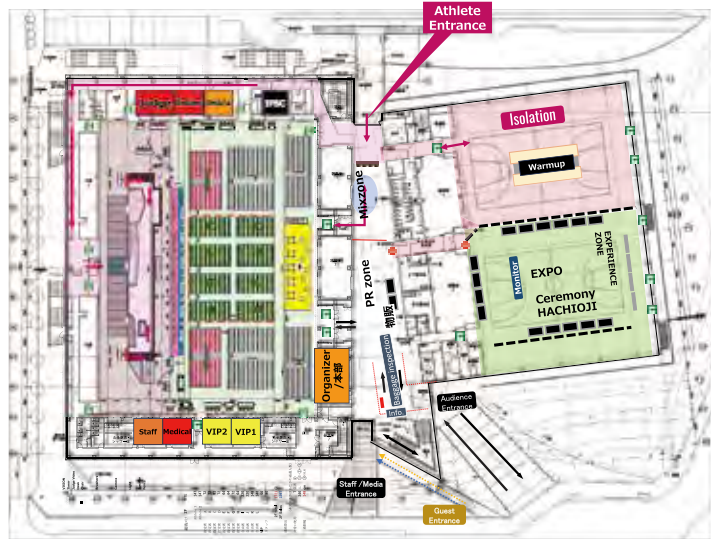
4月21日	1544人(観戦1057人)
4月22日	1738人(観戦1394人)
4月23日	1825人(観戦1477人)
計	5107人(観戦3928人)

メディア

Web露出 61件、新聞17件、TV6件

BWC 2023 実行委員会

2022年4月	2023 WC開催アプリケーション登録
2022年8月20日	WCカレンダー最終日対応
2022年9月26日	八王子市事前Meeting (日程、スケジュール)
2022年12月6日	BWC作業部会(大会概要検討)
2023年1月24日	第1回BWC実行委員会
2023年3月2日	TV関係会場ロケハン
2023年3月15日	警察打合せ
2023年3月16日	消防打合せ、第2回BWC実行委員会
2023年3月26日	BWC 2023作業部会(設営関係調整)
2023年4月5日	消防打合せ
2023年4月6日	八王子市長表敬訪問
2023年4月13日	第3回BWC実行委員会、設営開始
2023年4月14日-15日	壁建て
2023年4月16日-20日	設営、ルートセット
2023年4月21日	予選(小学校観戦)
2023年4月22日	女子準決勝・決勝 BS1生中継
2023年4月23日	男子準決勝・決勝 BS1生中継
2023年4月24日-25日	撤収



実行委員会



<https://youtu.be/dMoD9UYpY9g>

【IFSCスタッフコメント】

Stanley Yeo (IFSC Official)

I like to congratulate you and your team for a great Boulder World Cup in Hachioji.

3 strong points that Hachioji WC has demonstrated:

- ① The venue and facilities are excellent, we have sufficient and up-to-date resources and equipment for this event.
- ② I am very satisfied with the volunteers/technical officials, they are very driven in their assignments and are not shy to ask for guidance when they are not sure.
- ③ Lastly, the organisational team led by you has been very really helpful. I would like to especially thank Kyohei for being always so responsive to our needs since the pre-computation phase.

(要約)

- ・会場の素晴らしさ(最新のリソースと設備が用意)
- ・ボランティアやオフィシャルの行動への満足
- ・IFのニーズに常に対応した百瀬恭平さんに感謝

Federico Ferro ((IFSC Official)

I wanted to take a moment to extend my warmest congratulations to you and your team for the outstanding delivery and management of the recent IFSC World Cup in Hachioji. It was truly a remarkable experience, and I wanted to express our sincere appreciation for the effort and dedication that went into making it a big success.

From the planning to the execution, every aspect of the event was handled with utmost professionalism. The venue selection was excellent, providing a fascinating ambiance that enhanced the overall atmosphere. The coordination of logistics and scheduling ensured that attendees could fully immerse themselves in the program without any disruptions. Moreover, the choice of sport presentation and the quality of the sessions were exceptional, offering valuable insights and leaving participants inspired.

Your attention to detail was evident in the little things that made a big difference, such as the friendly and

knowledgeable staff, the well-organized registration process and technical meeting, and the timely communication leading up to the event. The technical setup and audiovisual support added to the overall experience and created a memorable environment for everyone involved.

The positive and inclusive atmosphere fostered connections and facilitated exchanges opportunities with Athletes, Coaches and in general with the teams. The feedback we received from fellow attendees was very positive, with many expressing their admiration for your team's hard work and dedication.

(要約)

- ・企画から実行まで、プロフェッショナルに満ちていた。
- ・フレンドリーで知識豊富なスタッフの対応
- ・イベント開催までのタイムリーなコミュニケーション。
- ・技術的なノウハウでの全体的な盛り上げ
- ・ポジティブで包括的な雰囲気が、アスリート、コーチ、とのつながりを育み、交流の機会を促進。

スタッフアンケート

■アンケート回答率：45% (48名/106名)

1. BWC2023に参加した感想

良かった	44
そうでもない	3

2. 次回、何か大会があるときはボランティアとして参加したいですか？

参加したい	39
場合による	9

3. 「1.」で「良かった」と回答した方の「2.」の回答

参加したい	33
場合による	6

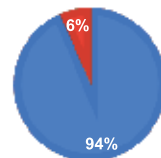
コメント抜粋

- ・予選（金曜日）の15H稼働（拘束）は厳しい。できれば2部体制にしてほしい
- ・普段選手として関わっているが、大会スタッフを初めて経験し、良い経験ができた
- ・初めてのボランティア参加であったが、事前の役割や業務説明が少なく不安であった。事前説明は改善した方がよいと思う。
- ・会場管理だったので大会の全容が見えて楽しめました
- ・東京でのリードワールドカップの開催を祈念します。
- ・最低限の人数で乗り切ることができた金曜日の人数をベースにし、土日の人数も減らすことができるのかもしれない。
- ・掲示物のデザインや文字が小さかった（IFSC指定）
- ・最終日の片付けを行ったスタッフはパーティで何も食べることができなかった。その辺りを配慮してほしい。

1. BWC2023に参加した

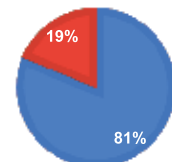
感想

■良かった ■そうでもない



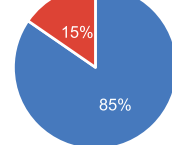
2. 次回、何か大会があるときはボランティアとして参加したいですか？

■参加したい ■場合による



3. 「1.」で「良かった」と回答した方の「2.」の回答

■参加したい ■場合による



Enjoy Climbing

【連載7】 横山勝丘 山を降りて

思いがけずパキスタンでの滞在が二週間近くも残ってしまった。ヘトヘトだし、日本で待つ家族にも会いたい。早く帰れば、少くくは自分のことも家のこともやれる。妻も助かるだろうし、子供達も喜ぶだろう。よし、帰ろう。

そう意気込んでいろいろ航空券の変更などを試みてはみたが、既に満席だったり、可能でも膨大な値段がかかるくせに帰国は二日しか違わなかったり。結局半日で諦めた。申し訳ない気持ちで妻に事の顛末を電話すると、「せっかく時間できたんだからどこか行ってくれば良いでしょ」とのこと。なんだよ、帰宅を首を長くして待ってるんじゃないのかよ！よし、こうなったらこれまでやりたくても出来なかったことをしよう。

鳴海と坂本の三人でスカルドウから三時間ほどのユーゴという村を目指す。カラコルムの山中ではボルダーなぞどこにでも転がっているのだけど、ここはちょっと凄すぎる。初めてこの地を車で通過した2014年以来、息を呑むほどに広がる巨大なボルダー群に相対するのを心待ちにしていたのだ。

ユーゴは、この街道沿いでは比較的規模が大きい。大きいと言っても、スーパーマーケットや、まともなレストランがあるわけではないのだけど、簡素な宿と、一応リゾートを謳うホテルが一軒ずつある。しかし簡素な宿にはスプリングの壊れたようなベッドしかなく、一晩でダニに全身をやられてしまいそうだ。ボルダリングこそ、毎日登るには身体のメンテナンスが必要不可欠。それに、この体たらくでは残りの時間くらいはゆっくり過ごしたかった。というわけで、なんの迷いもなくリゾートに泊まることに。

快適なベッドとシャワーにネット環境。おかげで、ボルダリングのモチベーションはうなぎのぼりだ。さすがに昼間は暑すぎてボルダリングどころではないので、部屋に戻ってシエスタ。ボルダリングは基本的に、夜明け前から9時すぎまでと、夕方4時すぎから日暮れまで。余った山食は持ってきてはいたが、夜は宿で晩ごはんも注文する。「ああ、ちょっと贅沢かな」と思いつつも、人間一度快適を覚えたならそこから逆行するのは難しい。ベースキャンプ生活もそれはそれで快適だし楽しいけれど、人間メリハリが重要だ。



砂浜の上に良質の花崗岩。クラック初段を登る鳴海

毎日黙々と岩と向き合い、時折訪れる地元住民とコミュニケーションを取る。岩はクオリティの高い花崗岩で、下地は柔らかな砂。ボルダーマットを持たない私達は、少し厚めのテントマットだけを持参していたが、それだけでもなんとかあった。ヨレヨレの身体のせいでろくに難しいラインも登れなかったが、岩のクオリティの高さと豊富さがあればそれで十分だった。どこをどのように登ろうか自由なんだもの。

坂本は四日目に、鳴海はその翌日にそれぞれフンザに向かったが、私はそのまま一人でこの場所に残った。遠征特有の煩わしい手続きや交渉もなく、命を脅かされる緊張感もなく、ただ独り石ころと戯れるのは幸せだった。

この頃はまだ山の疲れが尾を引いていて、山に対してポジティブな気持ちにはなれなかった。だけど、やっぱり登ることそのものは大好きなのだ。その思いをなるべく早いうちに再確認しておきたかった。そのためにも、私には観光よりもボルダリングだった。

至福の時間はあっという間に過ぎ、イスラマバードに戻る日がやって来た。この日も朝5時前には起きて、いつものようにボルダーに向かう。朝早い村人達の何人かとは、挨拶を交わすまでになっていた。ここぞと思うラインをいくつかトライしながら、またいずれ、この場所を訪れようと心に誓った。

この純粋な思いを忘れないようにしたい。ボルダーだろうがヒマラヤだろうが、登りたい！よし、登ろう！そんな感覚で対象に向かえることができれば、どんなに楽しいだろうか。現実には、ヒマラヤ登山はそんなに甘いものではないけれど。

パキスタンから帰国し、少しずつあのベースキャンプで過ごした日々をポジティブな気持ちで捉えることができるようになってきた。楽しいことも苦しいことも、それこそ恐ろしいことも、そのすべてに意味がある。

みんなそれぞれ事情はあるし、年齢的にもどんどんチャンスが限定されてゆくのは事実だけど、またあの場所に戻りたいと思う。他にもまだまだ魅力的な山や壁はたくさんある。どういう形で海外遠征を続けていくかをあえて限定するつもりも必要性もないけど、やっぱり日本を飛び出して海外の大きな山に自分の身を置くのは最高だ。

K7南西稜、これはいずれ誰かが終わらせなければならぬビッグプロジェクトだ。なにより、周囲のどのラインよりも巨大で美しい。技術的困難も、内容も一級品だ。

これまでのチームはフィックスロープを多用したカプセルスタイルだったが、今回アルパインスタイルでも実現可能だということは示せたとし、せっかくならリアルシットスタートで完成させるべきものだという確信がある。

私がふたたびトライする保証はないけれど、それと同等か、それ以上の対象を常に頭の中に持っていたい。そうすれば、きっと人生は豊かになる。とりあえずしばらくは家の近所で岩登りでもしながら、じっくりと次のプランを育てたい。

第1回山岳スキー(SKIMO)委員会総会 2023年5月13日~5月14日

山岳スキー(SKIMO)委員会が初めて対面で総会を長野県佐久平で開催した。

参加者は理事を含む17名。

17名が一同に会するのは初めてのため、まず自己紹介から始まった。

1日目は全体会議として、2023年度の年間スケジュールと目標を確認した。

また山岳スキー(SKIMO)委員会としての理念と行動指針についても話し合われた。

SKIMOが2026年のオリンピック種目に決定したことにより、選手強化、競技の普及と選手の育成、助成金および補助金の申請内容などの情報を参加者と共有しつつ、その一方でオリンピック競技の種目(スプリント、ミックスリレー)だけではないSKIMOの魅力や楽しさを普及するために、原点復帰して、

「今後、SKIMOの目指すところ」についても話し合った。

その後、各委員会の役割とこれまで活動してきたこと

を洗い出し、委員会ごとに役割分担などを話し合った。

2日目は、各委員会(広報、国際、アスリート、医科学、競技、強化、普及)でこれまでの活動実績と今後の展開や必要な予算について話し合ったことを発表した。

今回アスレティック・トレーナーに参加していただき、ケガをしないようなコンディションを持って行くためにまずその分析方法とそれに基づいた予防トレーニングについて実践を交えて情報提供があった。

町田登山部長によるJMSCAの体制と規程内容などについて確認しあった。

2023年3月より第2火曜日を山岳スキー(SKIMO)委員会のオンラインによる定例会とし、さらに今回対面での総会によってJMSCAの規程などのルールを確認し、山岳スキー(SKIMO)委員会の目標や各自の役割とやるべきことを明確にし、それを参加者で共有できたことで山岳スキー(SKIMO)のさらなる飛躍につながる活動につなげたい。(SKIMO委員長 小田部拓)



広島県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGsな活動

広島県山岳・SC連盟普及部は、①～④等の行事に取り組み自然保護活動を積極的に行っております。

①「比婆山国際スカイラン」は、中国山地中部の比婆道後帝釈国定公園に属している比婆山連峰内18.5km駆け巡る山岳マラソン(コロナ禍前参加者約700人)で、1990年の第1回大会から第30回大会(今年)まで続けて来ました。当初は自治体が主催でしたが、第18回大会より当連盟が引継ぎ実施しています。自然保護活動としては倒木処理、草刈り、登山道の補修等のコース整備を行っています。

大会前日には、「登山フェスティバル」と称して親睦会を行い、各加盟団体や会員相互間の交流(多い時は約200人)を図っています。

②自然環境保全をメインにした活動としては、まず平成26年にU A A A創立20周年記念事業を広島県で開催しアジア諸国や全国の山岳関係者が結集し、分科会、報告会、交流会を実施したことが挙げられます。併せて、平和記念公園の献花や宮島散策等も行いました。また、コロナ禍以前は定期的に行っていた広島県の「自然保護指導員研修会」では、県北の八幡高原、比婆山、吾妻山などのフィールドに出て、観察会や様々な自然保護の取り組みなどを行ってきました。特に平成29年度には中国五県研修会を「中国山地の自然を理解する」をテーマで、比婆山を中心に開催しました。今年度以降、再開を検討しています。

島根県境にある雲月山(911m)では春の草花の芽吹きを促す恒例の山焼きがあり、地元住民や県内外のボランティア、消防団員他約170人が参加し、約8ヘクタールの斜面を焼く行事に参加しています。

自然環境の変化を調べるために水質調査も行ってい

ます。県内の深入山、臥龍山、白木山、比婆山の湧き水を採取し大腸菌や酸性濃度などの数項目を検査、データの蓄積を行ってきました。しかし、調査結果の公表方法に課題を残し、残念ながら近年は調査を停止しています。

③『ひろしま「山の日」県民の集い』は、毎年6月の第一日曜日に県内の約10か所の市町行われ、森林や山を良くしていく運動のきっかけづくりとして、山の手入れなど実体感型の多彩なプログラムが行われています。各会場には最寄りの山岳連盟加盟団体や実行委員会が参加し、地域との交流も進めています。

④「ひろしま県民ハイキング」を平成28年度より毎月1回程度開催しております。新聞やチラシなどで広報活動し、ハイキングまたは登山の入門編として身近な山で普及活動の実施をしております。

おわりに

近年は、どの行事もコロナまん延防止のため中止となっていましたが、コロナの5類引下げに合わせて、各行事の順次再開に取り組みたいと考えています。

近年、ソロ登山が普及し知識と経験不足による事故や遭難が目につきます、このことを回避するには、安全登山の普及活動と自然環境に配慮した安全に登れる登山道などの環境整備、それらを行うための人材の開拓と会員の育成活動が持続するための課題と考えます。

ちなみにまだ個人レベルではありますが、田舎の里山を荒らす猪と鹿の駆除活動に参加しております(広島県は全国被害額ワースト1位)。捕れた個体は肉にしてイベント等の差入れに使っています。

(広島県山岳・SC連盟 普及部長【自然保護委員会担当】
三村孝治)



雲月山山焼き



害獣駆除



比婆山登山道整備

第59回海外登山技術研究会福井開催 報告

【第1日目】

日時：6月3日(土) 13:30～18:00(受付開始13:00)

会場：福井駅前アオッサ6F

福井市地域交流プラザ601A・B・C

【第2日目】

日時：6月4日(日) 9:00～13:10(受付開始9:00)

会場：福井駅前アオッサ7F

福井県ボランティア協会 706・707号室

研究会の初日の6/3に大型台風2号による記録的な大雨の影響で、東海道新幹線が東京一名古屋間でストップ、東海道や東京周辺的高速道路も閉鎖される中、岩崎国際委員長の号令の元、急遽福井に向けて北陸新幹線を使い金沢経由で福井まで来ていただきました。

当日の朝の状況から、初日の予定、最悪今回の研究会は中止になってしまうのではないかと不安な時間を過ごしました。

そのような中、私達福井県山岳連盟が会場開館前の打合せで建物の1Fロビーに集合している時に、東名を避け中央自動車道を利用して来た横山さん、馬目さん、鳴海さん、小峰さんの4名が1Fロビーに現れました。自然の驚異に立ち向かって来られた講師陣の気迫を感じました。また、国際・AC委員の方々もJRを乗り継ぎながら無事に会場に到着してくれました。

そしてその間にも県外の岳連(協会)の海外委員も福井駅に到着。奇跡的に予定通り研究会が開催されることになりました。

13:00一般の受付開始。13:30開会挨拶を主催者側からJMSCA小野寺 齊専務理事、主管の福井県山岳連盟の山本 利幸会長が挨拶しました。

そして「海外登山報告2022」が始まり、13:50から横山 勝丘さんのK7主峰(6,934m)南西稜の報告が行われました。

フィッツロイ山群の縦走でパートナーの佐藤 裕介さんが転落し、一度山が怖くなり2年間山に行っていなかったが、このままではいけないとK7に向かうまでの経緯を語っていただきました。“山に対して、理想があって現実に妥協して登る”と語られルートを見極める厳しさが伝わりました。

次にパキスタン渉外活動報告を鳴海 玄希さんが報告しました。現在パキスタンでも物価上昇がある。また、良いツアーオペレーターをチョイスする等現地での登山活動をスムーズに行うための大切なことを伝えていただきました。

15:50からチェキゴ峰(6,257m)南フェース登攀の模様を馬目 弘仁さんが報告され、山に入ってから登山許可を取得出来たこと、エージェントへの支払い額等報告されました。登攀に関してもクライミングシューズが無く、途中靴下で登られた等ユニークな報告でした。

16:50から小峰 直城さんによる2022-2023南米パタゴニア現地最新情報が報告されました。トポのアプリより現地の登攀情報が見られるようです。

“フィッツロイ”の山名が現地語の“セロ チャルテン”に変更された話、現地スーパーでの買い出しエピソード



など楽しい報告でした。

第1日目は18:00に終了。午前中の交通機関のトラブルより多少のキャンセル者は出ましたが、参加者67名でした。

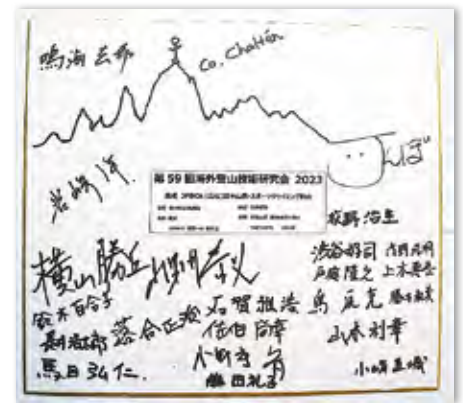
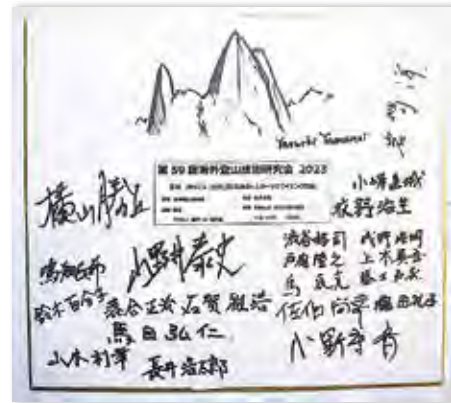
19:00からは福井駅前の居酒屋に42名が集まり、美味しい料理、飲物で会場が大いに盛り上がり、昼とは違った夜の情報交換となりました。講師、各都府県岳連の海外委員、学生等の交流があり、気の合った方々は3次会まで行かれたようです。

第2日目は9:00から「令和5年度国際委員ミーティング」(JMSCA国際委員のみ)が行われました。鳥辰克国際・AC委員の進行で5月に集計された各都道府県の海外委員の情報の交換が行われ、今後の発信方法も検討されました。

10:00からは一般の聴講者も期待されていた山野井泰史さんの特別講演が始まり、これまでの山野井さんの山登りを語っていただきました。日常生活での山への向かい方や、使用する山道具への愛着、最近の山での通信機器に対するご自身の考え方も伝えていただきました。

パキスタンのガッシャーブルムIV峰西壁、チョ・オユー南西壁、そしてカナダ北極圏の岩壁への想いも聴講者の目と耳を集中させてくれました。

11:40からは前日の4名の講師に山野井さん、司会役の岩崎洋国際・AC委員長を交えて『パタゴニアの今昔』と題して、座談会が行われました。山野井さんが山に登る時の想いに対し講師それぞれの想いが語られ、パタゴニアで、情報を得ながら好天時に一気に登る最近のスタイル等興味を引かれるものがありました。ヨセミテのように自由に登るスタイルは若い講師ほど強いとも感じま



した。

13:20 上記2日間の研究会はすべて予定通り実施。2日目の参加者は70名。

最後に福井県山岳連盟渋谷 好司副会長兼海外委員が挨拶を行い閉会。

今回の福井市での研究会はコロナ禍が落ち着いた中での地方開催となりました。皆様の温かいご支援のもとに無事に終了する事が出来、大変感謝しております。本当にありがとうございました。

(福井県山岳連盟副会長兼海外委員 渋谷好司)

寄贈図書

5月1日	日本山岳会	「山」4月号 No.935	会報
5月1日	㈱日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」No.2396	新聞
5月1日	(特定非営利活動法人)	「JATI EXPRESS」第94号	機関誌
5月1日	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 541	会報
5月2日	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」・春号 No.579	
5月8日	㈱ネイチュアエンタープライズ	「岳人」春山 No.912	情報誌
5月8日	独立行政法人日本スポーツ振興センター	研究雑誌「Journal of High Performance Sport」Vol.9-10	情報誌
5月10日	㈱オービックビジネスコンサルタント	「奉行EXPRESS」2023SPRING通巻第105号	情報誌
5月11日	㈱ネイチュアエンタープライズ	「岳人」6月 No.912	
5月11日	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」6月号 No.1064	雑誌
5月15日	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.399	会報
5月15日	(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.67 2023/05-06	情報誌
5月15日	㈱日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」No.2397	新聞
5月16日	Corean Alpine Club	「山(山)」2023年4月号 Vol. 278号	会報
5月19日	明治大学山岳部創部百周年事務局	創部百周年記念誌「炉辺十一号」1冊	寄贈
5月22日	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース 第448号」	会報
5月23日	㈱日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」No.2398	新聞
5月25日	東京野歩路会	「山嶺」Vol.100 No.1119	会報
5月25日	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」5月号 第502号	
5月26日	(公財)日本スポーツ協会	「JSPC 中期計画2023-2027」1冊	
5月29日	(公社)日本山岳会	「山」5月号 No.936	
5月29日	(公財)日本スポーツ協会 スポーツ科学研究室	アンチ・ドーピング教育・啓発教材 3部	

「国民体育大会」→「国民スポーツ大会」に改称

第78回大会（佐賀県）から実施

本協会は、戦後間もない、昭和21年（1946年）に京都地方を中心とした京阪神地域で開催された第1回国民体育大会（以下、国体）から、講演会、映画会などを通じ登山の普及・啓発活動で参加してきました。

その後国体は、「縦走・踏査・登攀」競技の導入による、登山者育成（指導者育成）、登山技術普及に大いに貢献しました。当時、競技性の乏しい本協会にあっては、唯一競技志向であったのが、国体でした。

さらに日本体育協会（当時）指導者養成制度の導入により、多くの指導者を輩出し、スポーツクライミング競技となった今日、世界で戦える選手育成にもつながりました。

国体は、47加盟団体（47都道府県体協加盟が必須）の協力・支援で成り立っています。本協会の根幹をなす活動でもあります。

その歴史ある「国体」が、2024年開催の第78回大会（佐賀県）から「国民スポーツ大会」（以下、国（こく）スポ）に改称することが、日本スポーツ協会（以下、J S P O）において決定されました。

それをうけて、本協会国体委員会も、**競技名を「国民スポーツ大会」、委員会名称を「国スポ委員会」（国民スポーツ大会委員会）と改称**することを、決定いたしました。（規程、規定等の名称改称のみ改正）

来年の佐賀国スポ大会では、大会名称とともに競技名称「ボルダリング」も「ボルダー」と改称されます。

英字表記では「JAPAN GAMES」となり、国スポ、全国スポーツ少年大会、全国スポーツマスターズの包括した表記ともなります。

J S P Oは、この表記にともない、新たな視点

- 「する」はもちろん、「みる」「ささえる」も
 - 人づくりも、地域を育むことも
 - 地域に根差して、スポーツ文化の土台を担うことをもっと広く
- を打ち出しました。
- さらにはこれからの国スポを含むスポーツを、

「する」「みる」「ささえる」の幅広い側面から、性別や年齢、障がいの有無、経済的事情、地域を問わず、スポーツが本来持っている「楽しさ」や「喜び」の本質を表すということと、「JAPAN GAMES」によってスポーツの魅力を最大化していく、スポーツが今以上にオモシロク、喜びのあるものになり、「スポーツの楽しさや喜び」がもっと広がる社会をつくるという意志を、このタグラインに込めています。

とする、新たな視点での考え方を示しました。

〈JAPAN GAMES 有明パーク〉

本年4月、「JAPAN GAMES」の認知向上と理解浸透を図るとともに、理念を体験・体感できるイベント「JAPAN GAMES 有明パーク」が開催され、本委員会も協力いたしました。当日は、シューティングシュミレーターなどのバーチャルスポーツ、ボルダーやスケートボード、パルクールなどのアーバンスポーツ等を体験できるプレーエリアの他、職業体験やJAPAN GAMES開催県ご当地フードエリアなど、楽しいコンテンツが多数提供されました。



（報告：国スポ委員会委員長 西原斗司男）

JAPAN GAMESに関するスケジュール（3カ年）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和4年度	【議題】 J.G. 基本方針 策定											
令和5年度	【議題】 J.G. 基本構想 策定											
令和6年度												



International Trainnig Camp を開催

今回、新しい取り組みとして、ワールドカップ八王子大会に紐づけて、その翌日に International Trainnig Camp を開催しました。

午前中に選手を対象としたトレーニングセッション、午後にはオフィシャルスタッフを対象としたワークショップを設定し、交流や情報・意見交換の機会を設けました。海外の反響は非常に大きく、トレーニングセッションとワークショップ合わせて、30か国のオフィシャル（役員や、コーチ、トレーナーなど）および選手たちが、総勢100以上参加しました。

トレーニングセッションでは、様々な国の選手で混合チームを作り、セッションを行いながら交流を深めました。ワークショップでは、「Athletes' development for JPN team」というタイトルで、トップチームの取り組みを安井博志（日本代表ヘッドコーチ）より、ユースチームの取り組みを西谷善子（ユース日本代表ヘッドコーチ）より、ボルダーチームの取り組みについて Benjamin HARTMANN（ボルダー担当コーチ）より紹介し、他国のオフィシャルスタッフと活発な情報・意見交換ができ、有意義な時間を持つことができました。

今後も、日本の取り組みを発信していきながら、スポーツライミングの発展に貢献できると幸いです。

Stanley Yeo (IFSC Official)

I am incredibly grateful to JMSCA for organising the International Training Camp. This training camp provides a unique and intense experience for athletes, team managers and coaches from all over the world to climb, connect and bond as friends. The biggest lesson I have learnt from the workshop is how many things JMSCA has to overcome to be where they are today.



JMSCA

令和5年度 第1回
ハイブリッド理事会議事録

- 日 時：令和5年4月13日（木）
14：00～16：45
- 場 所：J S O Sビル3F会議室1と
Webのハイブリッド会議
- 出席者：丸会長、小日向、古賀各副会長、
小野寺専務理事、相良、蛭田、濱田、赤尾、
町田各常務理事、前田、山本、青山、水村、
安井、栗田、山口、水島、野村、小竹、笹生、
原、小高、望月、丸山、中橋各理事
中島、古屋、佐久間各監事
- 欠席者 亀山副会長（病欠のため）、
村岡常務理事（八王子BWC準備のため）、
六角理事

1. 開 会 2. 丸会長挨拶

I F S C 総会で、ユース年齢枠が2025年から変更し、1歳上がると伝達された。マルチスポーツをしているNFはスポンサー獲得が厳しい状況になっている。一方で、2025年韓国は3億5千万円かけて世界選手権を行うなど、NFによって資金力の差が出ている。効率の良い経営、大会運営、人材育成をめざしていきたい。

3. 会議成立状況報告

理事数28名中25名出席、監事数3名中3名出席（定款第33条、定足数＝15名（1 / 2以上））

4. 議長選出

丸会長が議長を務める（定款第32条）。

5. 議事録署名人

会長及び監事（定款第34条）

ホストは小野寺専務理事が務める。

6. 議 題（注. 審議順に記載）

議案第1号 議事録の承認について

令和4年度第13回理事会議事録の承認について（事前送付済）、異議なく承認された。

議案第2号 役員選考委員会選考結果について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。

（今後の予定と推薦の経緯について）

役員選考委員会からの推薦リストをもとに、当理事会で承認されたら、6月の総会で決定、その後の理事会で、代表理事、三役、常務理事を決定する。

理事は、30名が推薦されている。監事は、3名が推薦された。

質疑応答ののち、小野寺専務理事が、被推薦者一覧の方々の推薦母体と役員選考委員会議事録をもとに補足説明をした。

また、一覧通りに承認されると、女性理事

は、6/30名(目標40%に対して20%達成)。外部理事は、5/30名(目標25%に対して16.7%達成)となる。

一覧上の候補者一名ずつについて採決をとり、以下の結果を経て、全員承認となった。(右数字は賛成票数である。本人は除く)

理事候補：30名

飛松好子24、野村善弥23、小高令子23、栗田季慎子23、望月啓治23、吉田春彦24、蛭田伸一23、小野寺齊23、前田善彦23、濱田豪23、赤尾浩一23、古賀英年23、町田幸男23、山本讓23、佐藤健24、村岡正己23、樋口義朗24、島田邦昭24、中島隆之24、安井博志23、小日向徹23、水村信二23、杉本怜21、西谷善子24、畑中渉24、平田伸也24、小田部拓24、中橋沙羅23、山口純子23、丸誠一郎23

監事候補：3名

中島正喜24、古屋壽隆24、佐久間務24

次回から推薦経緯の説明は、推薦の責任者である役員選考委員会委員長が、理事会に参加の上説明してほしいとの要望が出た。今回決まった内容は、総会で最終決議となる。それまでは他言しないことを出席者全員で共有した。

議案第3号 総会議事次第について

小野寺専務が、配布資料をもとに説明した。6月18日実施予定。5月上旬に案内配布予定。

議案第4号 新春懇談会表彰者追加について

小野寺専務理事が、配布した表彰調書で説明し、異議なく承認された。

議案第5号 規程の改定(アスリート委員会)について

小野寺専務理事が経緯を説明するとともに、山本理事が補足説明をした。

今回は、増員について合意ということで、具体的な人数(常任委員、専門委員数)は持ち帰り、アスリート委員会で検討することになった。

議案第6号 国際競技大会優秀者等に対する顕彰・表彰の実施について

SC部内で決められるので、当議案の協議は割愛。

議案第7号 令和4年度総括について

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明した。6月の総会の承認予定なので、よく読んでくださいと伝達した。

議案第8号 正会員入退会について(東京都岳連)

都岳連松本氏退会、廣川氏入会について採決し、異議なく承認された。

議案第9号 選手選考基準について

安井理事が、配布資料を基に以下の基準の説明をした。

—2023年スポーツクライミングユースリード・ボルダリング強化選手選考基準—
2023年スポーツクライミングユース世界ユースリード・ボルダリング派遣選手選考基準種目ごとにそれぞれできるだけ選手を派遣するために変更している。順位が同じになった場合に、優先する大会等を事前に決めている。
異議なく承認された

7. 報告(注. 報告順に記載)

報告第1号 3月度月次報告について

準備が整っていないため、割愛。

報告第2号 I F S C総会について

会長が、挨拶時に述べた内容どおり。

報告第3号 第15回WCM(Winter Climbers Meet)報告について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。

報告第4号 日本オリエンテーリング協会外部理事について

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明した。希望者がいればお願いしたい。

報告第5号 SKIMO報告について

笹生理事が、配布資料を基に説明した。

島選手、滝澤選手とも成績が向上した。

I S M F副会長Jim Mooreが来日し、札幌、白馬視察後にJOCにあいさつに行った。

報告第6号 B & L報告 BWC途中報告について

小野寺専務理事が、配布資料を各自見るように伝達した。

参加国40か国、World Cupとしては最大規模になる見込み。

報告第7号 委員会常任委員について

小野寺専務理事が、配布資料を基に常任委員の変更について説明した。

常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第8号 海外登山技術研究会について

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明した。福井県で、6月3、4日に実施予定。

報告第9号 スポーツクライミング保険について

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明した。日新火災から個人向けに当保険の紹介をしてほしいという要請がきている。

報告第10号 審判、セッターの認定及び昇格について

小野寺専務理事が、常務理事会で承認されたので、後で読むように伝達した。

報告第11号 コーチの認定について

小野寺専務理事が、常務理事会で承認されたので、後で読むように伝達した。

報告第12号 キャッシュフローについて

2023年3月末の時点の状況と今後のアクションについて報告した。

報告第13号 JOC N F事業補助金決定通知について

令和4年度の補助金は11,400万円に対して、概算払いですでに9,520万円を受領済なので、これから受領できるのは、1,880万円のみ。

観光庁や、上部団体への補助金申請中の案件が4件くらいある。スポーツ庁、JOCから今までの実績が認められているので、助成金をもらえているが、同一NF内の他の競技等で不祥事が発生したら、NFとして是正が求められるので、常に襟を正して対応していく必要がある。

報告第14号 スポーツ大会統治指針概要等(新聞記事)について

小野寺専務理事が、配布資料(新聞記事)を基に説明した。

報告第15号 後援名義使用承認について

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明した。日本登山医学会が、講習会を実施する活動に対しての後援名義使用承認である。各自内容を読むように伝達した。

報告第16号 選手選考基準に基づく選手派遣

小野寺専務理事が、配布資料をもとに、理

事会で承認された選考基準に基づき選考された選手の一覧となることを伝達した。

報告第17号 スポーツクライミングJapan Tourについて

小野寺専務理事が、配布資料を読むように伝達した。

報告第18号 安全登山普及啓発カードについて

水島理事が配布資料を基に現状の説明をした。高校登山はじめの一步を参考に山のピンチカードとし、7月中には、配布できるようにしたい旨の説明があった。

8. その他

令和5年JOCコーチの委嘱について

山本理事がJOCから通知されたコーチについての説明をした。スポーツクライミング6名、山岳スキー2名が委嘱されることになった。JOCへの書類提出や窓口は、引き続き山本理事が行う。

JMSCA内の選手強化体制については、従来どおりで、安井理事がスポーツクライミング、小田部選手強化委員長と松澤氏が山岳スキーの強化にあたる。

以上

令和5年4月13日 記録 赤尾 浩一

JMSCA

令和5年度 第2回 ハイブリッド理事会議事録

○日 時：令和5年5月11日(木)
14:05 ~ 16:45

○場 所：J S O Sビル3F会議室1と
Webのハイブリッド会議

○出席者：丸会長、亀山、小日向、古賀各副会長、小野寺専務理事、相良、村岡、蛭田、濱田、赤尾、町田各常務理事、前田、山本、青山、水村、安井、山口、水島、野村、小竹、原、小高、望月、丸山、中橋各理事
中島、古屋、佐久間各監事
○欠席者 笹生、六角、栗田理事

1. 開会

2. 丸会長挨拶

今回は、令和4年度の決算数値についての議論が中心になる。固定費の見直しや、旅費の見直し等、新たな飛躍につながるような議論と、建設的な提案がされることを期待する。

3. 会議成立状況報告

理事数28名中25名出席、監事数3名中3名出席(定款第33条、定足数=15名(1/2以上))

4. 議長選出

丸会長が議長を務める(定款第32条)。

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

ホストは、途中から小野寺専務理事が務める。

6. 議題(注. 審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について

令和5年度第1回理事会議事録の承認について(事前送付済)

異議なく承認された。

議案第2号 令和4年度総括・事業報告について

町田常務理事(登山部)、安井理事(SC部)、蛭田常務理事(組織基盤強化支援事業)が、配布資料を基に説明し総括・事業報告は(収支決算の部分を除く)異議なく承認された。

議案第3号 令和4年度決算(仮)について

相良常務理事が、配布資料を基に説明した。

貸借対照表：昨年と比較し、財産が減っている。予算と比較し、収入は増えたが、それ以上に支出が多くなった。

公益会計は赤字となっていて、内訳は登山部、SC部、独立部門が赤字となっている。当数字に、消費税、賞与引当金、退職給付引当金を計上すると、さらに、支出増となる見込み。

小野寺専務理事が、以下の補足説明をした。

1. 助成金の申請金額に則って予算化したのが、実際助成された金額が、申請金額より低く、その分が赤字となった。
2. 管理費の旅費も、予算より多く、出張人数も4人ではなく2人にするとか、安い旅費にする工夫も必要だった。
3. 登山部の赤字は、ほとんどSKIMO。強化費用として申請時の金額で予算化したのが、実際はその金額が交付されていない。
4. 当協会の令和4年度の決算状況は、非常に厳しい状況。総会で、現状の説明をするとともに、対策が必要。

さらに、濱田常務理事が、次の補足説明を行った。特に、支出を各委員会がコントロールしなければならない。予算超過となった委員会には6つに集約されるので、これらの委員会に対して次の対策をとっていきたい。

1. アンケートを実施する。
2. これらの委員会の発注につき、事務局での承認を経て、集中して発注処理を行う。
3. 予備費を確保する。必要な事業に集中投下するために、6月が終了した時点で予算の見直しを行う。

全体をとおして

一ボランティアベースの競技運営では限界がある。IFSC主催の盛岡では、常に予算を意識して、予算内になるように数値を監視し、バランスをとっていた。特定の人に負担が偏っていて、権限移譲も進んでなかった。

一発注仕様等明確にし見積を取るといふ、基本的なことができていたのか疑問。

一業務委託等を含めた今後の体制を検討したい。

一海外旅費について役員の派遣を誰が決めて、見積書を出すのか手順が不明確。

一発注先がスポンサーなので、値引き交渉が難しく、随意契約に該当する場合もかなりある。

一2019八王子大会の後、予算管理規程を見直し、より細かなルール作りとして予算執行管理に関する運用規律が定められた。その中でも相見積もり等のルールは定められている。それらルールに則った予算執行をしていなかったのならば、法令順守をしていない、コンプライアンス違反ということになる。コンプライアンス違反であれば、倫理規程違反、懲戒処分という話も出てくる。2019八王子大会後には、SC

部門の担当理事が、大会ごとに予算執行状況を確認され、赤字のないように取り組んでいたが、そのような運用は行われていなかったということか。

一各委員会のボランティアでは限界がある。事務局を中心とした財務に関する管理体制強化は要員面の補充を含めて不可欠。このままでは再発の恐れがある。

一経営判断の原則である善管注意義務ということを確認する必要がある。規程としてまとめたものが守られていない。会長だけでなく、業務執行理事や、理事の責任は重い。

一上記意見を経て、予算を管理する組織体制の再整備、海外/国内出張旅行の命令方法と規模を事前に承認するプロセスの導入、予算、見積と実請求の乖離が発生した場合の対応方法を定めること、責任者を明確にして確実に実施する必要があるとまとめられた。

議案第4号 規程の改定(新規・契約事務取扱規程)について

赤尾事務局長が配布資料を基に説明した。入札が基本となること、特定金額以下では、複数見積りで対応(100万円以下、財産処分は50万円以下)、提案方式契約、特別契約という順序で対応することになる。第7,8条を先頭にすることも可。そういう変更も含めてガバナンス委員会に一任することを前提することで採決を取り、以下の結果となった。

議案第5号 正会員入退会について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。

退会	入会
高知県 麻田 正博氏	刈谷 範光氏
山口県 小林 弘之氏	古林 喜明氏
栃木県 石澤 好文氏	糸川 章氏

から、届けが来ており、異議なく承認された。

議案第6号 総会及びその直後の理事会について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。PM2:30に総会を終了しその後、理事会、理事監事の研修会を行う提案とし異議なく承認された。

7. 報告(注. 報告順に記載)

ホストは、報告から小野寺専務理事が務める。

報告第1号 月次報告について

小野寺専務理事が、令和4年度決算実績は先ほどの議事で協議した通りである旨を伝達した。

報告第2号 BWC報告について

小野寺専務理事が、配布資料を各自見るように伝達した。

報告第3号 委員会常任委員について

小野寺専務理事が、配布資料を基に、UIAA委員会、SC指導委員会、山岳スキー委員会の常任委員の追加変更が、常務理事会で承認された旨報告した。

報告第4号 日本山岳写真協会後援名義の承認について

小野寺専務理事が配布資料を基に、常務理事会で承認された旨報告した。

報告第5号 国体名称変更について

小野寺専務理事が配布資料を基に、国民体育大会から国民スポーツ大会に名称が変更されることに伴う諸規定、諸競技規定等、競技開催基準の変更であることを説明

し、常務理事会で承認された旨報告した。報告第6号 審判・ルートセッター更新研修について(長崎県)

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。

報告第7号 日山協山岳共済会令和4年度決算について

次回行うので、今回の報告は割愛。

報告第8号 加盟団体振興推進PTからの報告

亀山、古賀副会長が配布資料を基に説明した。

情報共有について：9ブロックからの代表であるとともに、担務を担う前提で理事を選定する。次々回の役員改選時に検討をお願いしたい。各ブロック大会に理事が参加するとともに、問題点への速やかな対応をする。

全日本大会について：登山普及委員会に今後の活動をゆだねたい。

報告第9号 全日本大会(千葉)について

蛭田常務理事が、配布資料を基に説明した。日程は、2024年2/16,17,18を予定。

報告第10号 共済委員会からの報告

蛭田常務理事が、配布資料を基に説明したが、どこまで情報を公開したらよいか、いくつか意見が出された。

次回理事会で決定するので、その他意見等あったら蛭田常務理事へ集約する。

報告第11号 登山部会議事録について

小野寺専務理事が、配布資料を基に各自読んでおくように伝達した。

報告第12号 ジャパンツアーについて

小野寺専務理事が、配布資料を基に各自読んでおくように伝達した。

報告第13号 SC指導者規程・規約の変更

蛭田常務理事が、配布資料を基に、変更点の説明をした。

8. その他

丸会長から次の点の補足があった。

1. 協賛会社獲得実績
エネオス2700万円。シルバーで契約予定6月より
2. 新規補助金獲得実績(画面表示に基づいて説明)
令和4年、令和5年で新規獲得したが、現在申請中のものもある。
3. 八王子BWCの大会結果について
SNSで、500人くらいから、交通事故で亡くなったユース選手や、ウクライナ選手の予選参加について共感を覚えた等のフィードバックがあった。

前田理事から

SDGs推進委員会として、各委員会からの返答を待っているため、返信をお願いしたいとの依頼があった。

総会について

小野寺専務理事が、理事、監事、委員長含めできるだけ、対面で出席してほしいと伝えた。

以上
令和5年5月11日 記録 赤尾 浩一

8月号より開始! かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ

岩手山(2,038m)は岩手県最高峰の山ですが、盛岡中心部から約20キロで登山口まで行くことが出来ます。県庁所在地から身近に2000m級があるのは珍しいのではないのでしょうか。

登山口は7つありそれぞれバリエーションに富んでおります。馬返し登山口からの八合目避難小屋には7月1日の山開きから10月中旬頃まで協会の担当者が管理人として常駐しております。また、協会で作成した“岩手山の花と木”には植物等詳しく載せております。

(一社)岩手県山岳・スポーツライミング協会
専務理事 小野寺 修

編集後記

上級夏山リーダー資格がUIAAの認定を得て、日本国内に普及させるための第1歩の講師養成講習会が6月10,11日に兵庫県道場駅周辺および神戸セミナーハウスで24名が集結して開催されました。

UIAA資格委員会のメンバーと上級夏山リーダーの資格者(JSPOコーチ1資格含む)および京都府山岳連盟の2人と日本勤労者山岳連盟の2人もオブザーバーとして参加されました。

JMSCA山岳の目的である減遭難活動につなげるべく、JMSCAと労山が一緒に活動出来たら大きな前進です。さらにJACも参加いただきたく、時間はかかっても進めていきたいと思っております。皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。(蛭田伸一)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第651号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
(毎月1回15日発行)

発行日 令和5年6月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ

岳人

7月号

特別
編集

夏山2023

憧れの百名山へ

★メンバーのウェブサイト、全国のメンバーストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 特別価格1,200円(税込)

メンバークラブ入会キャンペーン実施中!

▶年間購読が断然おトクに!

年間購読通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに

メンバークラブ会員さまには
メンバーポイント **5,000P**プレゼント!

※2023年7月号開始の年間購読分が対象

メンバークラブ会員さまで現在年間購読中の方は、次回継続時に5,000ポイントをプレゼントします。



年間購読特典

岳人 U.L. ショルダーバッグ



※カラーはお選びいただけません。
軽量で丈夫な生地を使用。登山中のサブバッグに!

限定デザイン

岳人カード

全国2,000カ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国のメンバーストアでも受付中!

お問い合わせ
メンバーポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

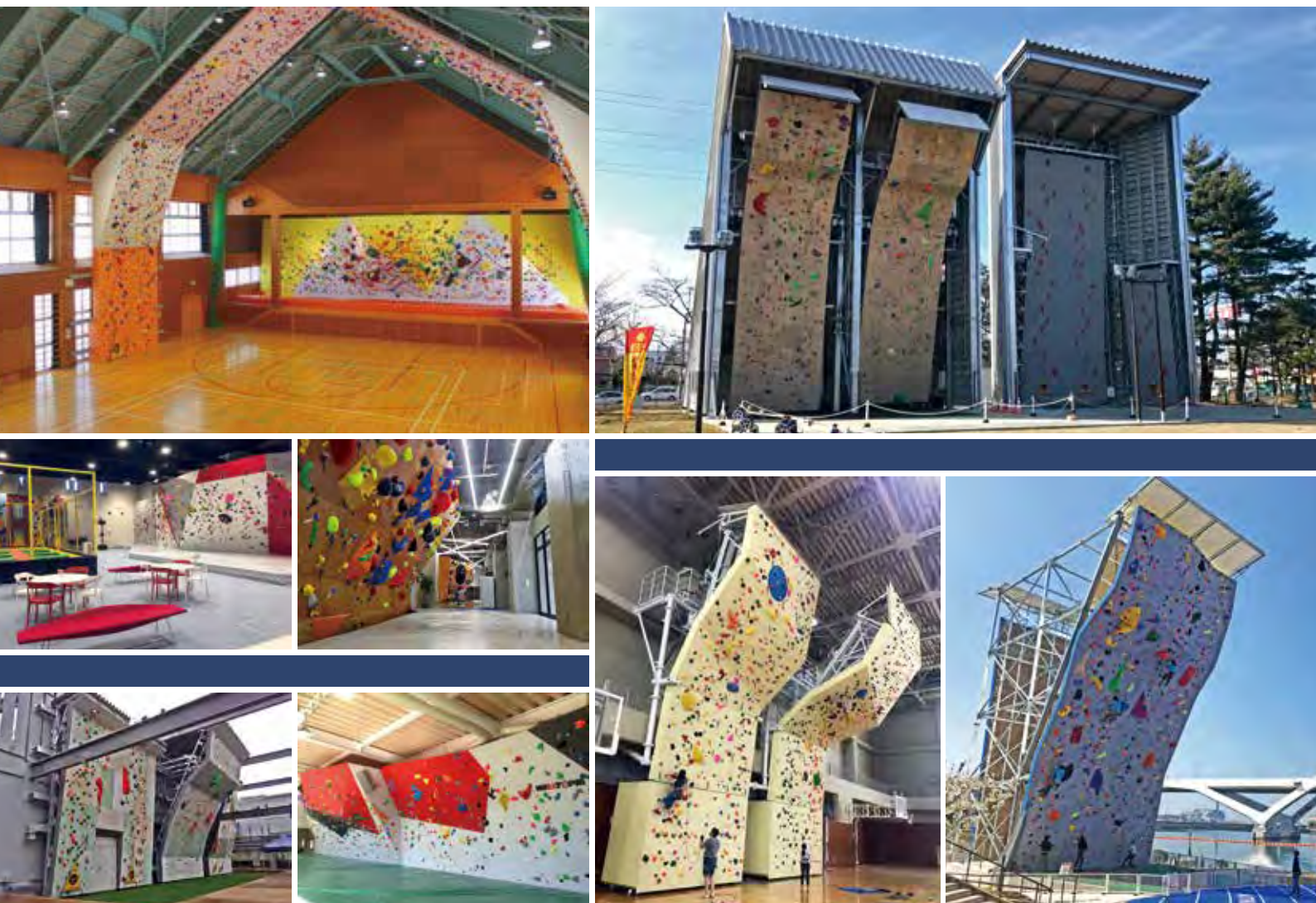
持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます